

ジュルティックカップ・インディペンデンスリーグ



負け知らずの6連勝中！！

Cブロック前期完全制覇も射程へ



Iリーグ

右から得点後喜びを露にする奥村。
安定感を持ちチームを牽引する湯川。
筑波大戦で公式戦初ゴールを奪った須田。「(初得点
は)素直に嬉しかった」とコメント
試合中衰えることのないスタミナで走り回る山崎
(撮影・永田博義)

第7節 6月25日
対慶応義塾大学
筑波大学グラウンド 15時～
つくばエクスプレス線「つくば」駅下
車、関東鉄道バス筑波大学循環(左回
り)に乗車し、「合宿所」下車

第8節 7月1日
対日本大学戦
日本大学グラウンド 15時～
京王相模原線「若葉台」下車、徒歩15
分

Iリーグを見ていて全部の試合に共通している事なのだが、得点の場面で必ず選手の歓喜の声がある。そのままに聞こえる事が魅力的でもある。リーグ戦は立派な競技場で行われており、観客も入っている。選手の喜びが姿しか垣間見ることができない。筆者が一番印象に残っているのは筑波大学戦での須田のゴールだ。そのゴールは試合終了間際の得点だった。誰もが引き分けて終ると思い、連勝記録も途絶えたと感じていた時に決めた得点。須田は得点を決めた瞬間、やった。やった。やった。と連呼しはち切れんばかりの笑顔でチームメイトとハイタッチし喜びを爆発させた。得点が大学の公式戦初得点というもあつたと思うが、自分の気持ちを素直に表現していた。

自分の気持ちやありのまま人々に表現することは並大抵の事ではない。信頼する仲間がいるからこそ出来ること。チームメイトは皆家族みたいな関係である。とてもつらやましく感じた。スポーツであるからこそ出来るものではないだろうか。

現在、Iリーグに出ている選手の歓喜の音が聞こえない場所での活躍が待ち遠しい。(永田博義)